

鹿児島県出水市（国内 30 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 8 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は丘陵地に位置しており、周辺を果樹や林に囲まれていた。
- ② 当該農場周辺には農業用ため池があったが、10 月から水が抜かれており、調査時水鳥類は確認されなかった。当該農場から約 500m の池でカモ類計 17 羽が確認されたほか、約 1～1.2km の距離の川及びその周辺の水田でツル類計 390 羽、カモ類計約 300 羽、サギ類等が確認された。
- ③ 当該農場は 2 階建てウインドウレス鶏舎 1 棟で、各階背中合わせの 4 段 4 列式のケージ飼いであった。
- ④ 当該農場は国内 17 例目、19 例目、23 例目、24 例目及び 27 例目のそれぞれの発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 17 例目の発生に伴い 11 月 25 日に実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 237 日齢）において、12 月 5 日までの 1 日当たりの死亡羽数は平均 4 羽程度で推移していたところ、6 日に 15 羽死亡し、7 日に同一ケージ内で複数羽の死亡を確認したことから、系列会社を通じて家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 発生ケージは、1 階と 2 階の中央列の奥側寄り、下から 4 段目及び 5 段目に死亡が多い印象だったとのこと。発生鶏舎において産卵数の低下やエサ食いの低下等の異状は認められなかったとのこと。
- ④ 調査時には、2 階の発生ケージ付近において死亡鶏や衰弱が確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場の作業従事者は 4 名で、うち 2 名が鶏舎内での飼養管理作業を行っており、残る 2 名は集卵作業のみを担当していたとのこと。
- ② 当該農場の従業員を含め、他農場との人の行き来はなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場には衛生管理区域出入口が 2 か所あり、立入禁止の看板が設置され、使用時以外はロープが張られていた。衛生管理区域の周囲は柵等の境界は設置されていなかった。
- ② 飼養管理者によると、衛生管理区域内に入場する車両は、集卵舎前の動力噴霧器で消毒を実施しているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員は集卵舎入口で踏込み消毒（逆性石けん、毎日交換。以下同じ。）後、集卵舎内にある更衣室にて衛生管理区域専用作業着及び靴に更衣し、手指消毒後に手袋を着用しているとのこと。日常的に衛生管理区域に出入りする外来業者は飼料運搬業者や集卵業者のみで、衛生管理区域専用作業着及び長靴を持参し、着用しているとのこと。その他外来入場者については、農場が用意した防護服及び長靴を着用させているとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、鶏舎出入口では、衛生管理区域専用靴を踏込み消毒し、鶏舎内で保管している鶏舎専用靴に履き替え、鶏舎専用防護服の着用を行い、手指消毒後に手袋を着用しているとのこと。集卵舎から鶏舎に入ることも可能だが、この際も同様の衛生対策を行っていたとのこと。
- ⑤ 衛生管理区域内は鶏舎周囲に降雨後又は薄くなってきた時に消石灰を散布し、飼料運

搬車の作業場所周囲は噴霧消毒（逆性石けん）を毎日実施していた。

- ⑥ 鶏舎から集卵舎に続く集卵ベルトは、屋内に設置されていた。
- ⑦ 鶏舎内の鶏糞は除糞ベルトにより4日に1回堆肥舎に搬出されるとのこと。除糞ベルトは地下に設置されており、稼働していない時は鶏舎内開口部は板で塞がれていた。堆肥化処理された完熟堆肥は週に2回、系列施設に自社トラックで出荷するとのこと。
- ⑧ 集卵舎前にある飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通じて自動給餌する構造となっていた。
- ⑨ 給与水は地下水を使用しており、次亜塩素酸による消毒を実施した上で、鶏舎内のラインを通じて自動給水する構造となっていた。
- ⑩ 飼養管理者によると、死亡鶏の回収は鶏舎見回り時に行い、ペールで一時保管し、2日に1回程度、地域の共同死鳥保管庫に搬出しているとのこと。死亡鶏の搬入時は、保管庫において車両及び作業動線を消毒し、使用後のペールを洗浄・消毒していたとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、オールイン・オールアウトを実施しており、アウト後に鶏舎の清掃、消毒を行い、その後の空舎期間は45日程度設けていたとのこと。
- ⑫ 飼養管理者によると、ウインドウレス鶏舎内の換気は、鶏舎側面のインレットから吸気し、奥側の換気扇から排気を行っているとのこと。インレットには金網(1.5cm×8cm)を張っており、排気用換気扇の外側には換気扇が停止すると自動で閉鎖するシャッターが設置されていた。
- ⑬ 他農場との器具等の共有については、入雛及び廃鶏出荷時に使用する自社フォークリフトを使用しない期間は共同死鳥保管庫に保管し、死鳥回収業者が使用できるようにしていたが、自農場で使用する際は消毒していたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場周囲ではネコを見かけるとのこと。カラスも見かけるが、今年あまり見かけないとのこと。調査時、農場上空ではツルの飛来が確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内では、ネズミを見かけることはあまりないが、糞は見かけるとのこと。ネズミ対策として殺鼠剤及び粘着シートを置いているとのこと。

(以上)